

# 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

アンケートの  
回収数をこちらに記載

公表: 令和 6年 4月 2日      事業所名 ビジントレーニング「療育べすとびじょん」

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	No	集計数	はい	いいえ
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	・子どもの人数や特性に応じて、動き方の内容も工夫しています。 ・午前と午後、未就学の低年齢・高年齢、そして就学児童と、曜日と時間で設定し調整していることで、工夫も可能となっています。	1	8	8	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	・その日の利用児童の人数によって、また、利用児童の年齢によって、適正な人数の変動をおこなっています。	2	8	8	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	・当事業所はバリアフリーの対応はしておりませんが、階段には滑り止め、手摺りには安全に握りやすい工夫はしております。現在はバリアフリーを必要とする児童はご利用になられていません。	3	8	8	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	話し合いをおこなったり、HUGを活用して、全ての職員が周知できるように工夫しています。	4	8	8	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	保護者向け、事業所向けの評価の結果を踏まえ、改善すべき点を話し合い、これから更なる業務改善につなげていけるように努めています。	5	8	8	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	昨年度も公表をおこないました。保護者の方々が目を通しやすいように、公式ホームページにて公表しています。また、それに関しての周知文章も配布します。	6	8	8	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%	他の事業所や学校関係者の方々からのご意見をいただき、業務改善に向けての話し合いの機会は定期的に設けています。	7	8	8	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	職員のスキルアップのための支援方法やプログラム内容の向上に向けて、定期的にビジントレーニングの企業サポート講座に参加しています。今年度は、コグトレ学会副代表理事「宮口英樹」先生の講演研修を学びました。	8	8	8	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	各保護者や保育園・幼稚園・学校等と連携を取りながら、実際に、子どもたちと関わり、一人一人の発達段階を見極めたうえで、支援内容を考慮しています。また、個別支援計画原案を作成し、一人一人に応じた計画作成会議をおこない、子どもの発達についての話し合いを実施し、その結果をもとに定期的に各保護者と面談をおこない、支援計画に反映させています。	9	8	8	

10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	一人一人、当事業所をご利用して頂くにあたり、各保護者と面談をおこない、現在の子どもの様子の聞き取りをおこないアセスメントシートに起こし、全ての職員が情報を常に共有していけるように使用しています。書式は、基本的な生活習慣、学習面、運動面、メンタル面、困っていること、心配なこと等、見やすいように記載を工夫しています。	10	8	8	
----	--	------	----	---	----	---	---	--

適切な支援の提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	その日の利用児童に沿ったねらいを決め、活動内容を考え工夫しています。	11	8	8
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	子どもたちの動きを振り返り、集中が長続きしにくい子どもたちでも飽きがないように工夫しています。	12	8	8
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	時間などには配慮をして対応しています。送迎場所をご自宅や、児童クラブなど、ご家族のニーズにお応えし支援をおこなっています。	13	8	8
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	子ども一人一人の発達の段階を見極め把握し、支援計画による支援目標に沿って活動内容を工夫しおこなっています。	14	8	8
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	活動内容の打ち合わせは、毎日13時からおこなっています。午前の活動の打ち合わせは、前日におこなうこともありますが、送迎に対応し話し合いができない時もあります。そのような場合には、当日の朝、内容を共有する場合があります。	15	8	8
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	午前と午後に分けて、活動終了後には、子どもの様子の変化や、反省点、支援内容の見直し等を話しあうこともあります。また、HUGでの活動日報に記録や振り返りを打ち込み、職員全員で周知することを徹底しています。	16	8	8
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	日々の支援記録は、導入ソフトHUGより、写真も含め徹底して記録に残しています。また、定期的にミーティングをおこない、記録をもとに支援内容を共有し、より良い療育活動につなげていけるよう改善に努めています。	17	8	8
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	モニタリング会議資料を作成し、その内容に基づいて会議をおこない、支援目標・支援内容の見直しをおこなっています。その際、どの職員も、子どもに対しての見立てや手立ての意見を出し合い、常に計画に反映していけるよう努めています。	18	8	8
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%	0%	職員間で話し合い、子どもたちの姿に沿って、より良い支援に繋がっていけるように努めています。	19	8	8
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達支援管理責任者は、相談支援専門員による申し出があると、その対象児童の学校や関係機関へ出向き、サービス担当者会議に参加している。その際、子どもの様子や、支援目標、支援内容など、必要な事項を記載した資料を必ず作成提出し、保護者、相談員、先生と情報共有をおこない対応をおこなっています。	20	8	8
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	保護者とのやり取り、学校とのやり取りを密におこない、連絡調整をしながら、工夫し対応しています。	21	8	8

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			医療的ケアの必要な児童は受け入れておりません。	22			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	相談支援事業所よりご依頼を受けた時のみ、共有をおこなっています。電話での連絡の場合もありますし、保育園や幼稚園、関係機関に出向き会議に参加し資料を提出する場合もあります。	23	8	8	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	相談支援事業所よりご依頼を受けた時のみ、共有をおこなっています。電話での連絡の場合もありますし、学校に出向き会議として参加し、支援計画に基づいて資料を提出する場合もあります。	24	8	8	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	各市町の児童発達支援センターの担当保健師と適宜連携を取り合い、支援を必要とする子どもたちの情報を共有し、適切な対応をおこなっています。	25	8	8	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%	他の事業所や、児童館と直接の交流はしておりません。毎年年に1度、ご家族全員参加型で、地域の小学校の体育館をお借りして「運動会」を実施しています。	26	8		8
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%	自立支援協議会、子ども部会等への会議には参加していませんが、これから機会があれば、参加していきたいよう努めていきます。	27	8		8
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	各ご自宅に送迎に行った際、保護者の心配事や、お悩み、最近のご様子など聞き取りをこまめにおこなっています。しかし、午前の対象児童におきましては、保育園から保育園への送迎対応となるため、直接的に保護者と接する機会はほとんどありません。そのような場合におきましても、導入ソフトHUGより、支援内容を細かくご説明し、それに対してのコメントもいただき、成長における情報の共有は工夫しておこなっています。また、電話でのご連絡によりお話しをする場合もあります。	28	8	8	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%	0%	子育ての対応に悩んでいる保護者や心配事を抱えている保護者に対してなど、その都度個別に対応しています。どうすれば、子育てがしやすくなるのか、子どもへの接し方や声掛けの仕方など、子育てに対しての見通しが少しでも持ちやすくなるように、そして楽しみながら子育てに向き合っていけるように話し合う機会を設けています。	29	8	8	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	重要事項説明書・利用契約書に基づき、適切な説明をおこなっています。	30	8	8	
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	お困りの際には、個別でご連絡いただく場合もございますが、送迎時にご相談されるケースもあります。児童発達支援管理責任者がその都度対応しています。	31	8	8		
32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	年に1度、事業所間において、ご家族全員で参加型の「運動会」を実施しております。その際、各保護者の方たちの交流も深まり、一緒に競技を楽しみ、共感し合っ、情報交換もおこなっている様子です。	32	8	8		

保護者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	相談を受けた場合には、関わっている職員全員で話し合い、共有し、より良い対策を考慮し対応しています。	33	8	8	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	事業所で導入しているソフトHUGにより、常に保護者様にはお知らせをおこなっています。	34	8	8	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	HUGにより、色々と情報を掲載していますが、他の友だちの顔部分を分からないように隠して公開するなどの配慮はきちんと行っています。また、各保護者に対しても、十分に気をつけて対応しています。	35	8	8	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	「目で見てわかること」を大切に関わり方には最善の工夫を考慮しています。特に一人一人の発達の段階や年齢に応じて、場面の切り替わりや、事前予告など工夫しておこなっています。保護者に対しても、分かりやすく説明をおこない、見通しを持って接しけるような配慮をおこなっています。	36	8	8	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	ホームページに掲載する、SNSやInstagram、チラシを配布するなどの手段を使って、事業所の体験見学や、親子体験会を実施し、ビジョントレーニングについてお伝えしています。	37	8	8	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	緊急時対応マニュアル・感染症対応マニュアルを作成し、各ご家庭に周知していただくために、今年度より、公式ホームページにて掲載しています。4月には周知文章も配布いたします。	38	8	8	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	月に1度、火災・地震の避難訓練を実施しています。曜日によって利用児童が異なりますので、定期的に全員が訓練に参加できるように年間計画を立てています。しかし、訓練として経験できることは、年に1度ぐらい、体調不良などで欠席されるという場合もあります。その旨は、各保護者様に契約時にご説明をさせていただいております。	39	8	8	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	年に一度、全職員に研修を実施しています。	40	8	8	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	####	####	身体拘束を必要とする児童を受け入れておりません。	41			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0%	100%	アレルギーは把握していますが、医師による指示書に基づく対応は致しておりません。	42	8		8
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	その都度、ヒヤリとした瞬間の情報を共有し、職員間で話し合っています。また、記録に残し保管し、全職員で周知をおこなっています。	43	8	8		